

導入事例

他社はどうしてる？

脆弱性診断 の内製化 で叶える

セキュリティの進化



なぜ今、脆弱性診断の内製化が必要なのか？

Web開発スピードが年々加速



DX推進に伴いWeb開発スピードが加速して順次リリースするアプリの診断コストがIT予算を圧迫してきた



リリース時だけでなく高頻度かつ部分的に実施できる診断が必要


圧倒的なセキュリティ人材不足









アプリのリリースに対してセキュリティエンジニアが少なすぎる



そもそもセキュリティエンジニアの母数が少なく、教育に時間がかかる

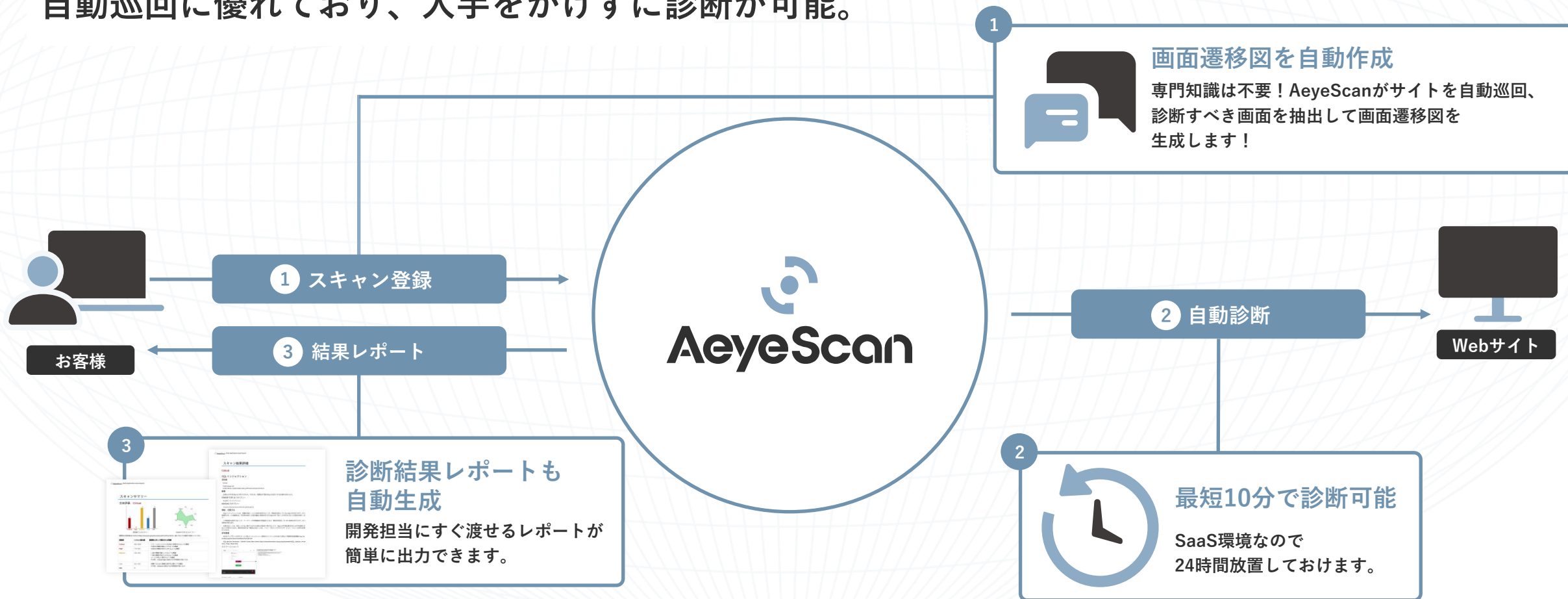
 **AeyeScan** なら脆弱性診断の内製化をカンタンに実現

| AeyeScanによる内製化 vs ベンダーに外注

	 AeyeScan	ベンダーに外注
費用	 年間契約で、回数制限なく診断できる 追加料金の発生なし	 Web開発ごとに診断コストがかかる 診断費が増える一方
人材	 セキュリティエンジニア不要 高度な診断が、簡単な設定のみで診断できる	 ベンダーに丸投げ。社内に専門的な人は いないが、ノウハウも蓄積されない
クオリティ	 精度の高い巡回・診断が可能、視覚的にわかり やすいレポート問題点もひと目で理解できる	 ベンダーによって差があり診断結果を読むの も一苦勞で、結果を活かしきれないことも
スピード	 最短10分で診断開始 自社のタイミングで、すぐ診断	 ベンダー都合になるため、 調整や納品までに時間がかかってしまう

そもそもAeyeScanとは？

AI・RPAの活用により、脆弱性診断を自動化するクラウド型Webアプリケーション診断ツール。
自動巡回にも優れており、人手をかけずに診断が可能。



導入事例紹介

エイチ・アイ・エス 様



企業名 株式会社エイチ・アイ・エス

事業内容 総合旅行会社

従業員数 10,849人 (2023年6月時点)

課題

セキュリティの内製化が困難。
診断の外注コストを削減したい

具体的な課題

- 1 社内からの診断依頼が増え続けていた
- 2 診断対象が多く外部委託せざるを得ない
- 3 外注による診断コスト増

内製・外製含め100を超えるWebアプリケーションがあり、内部の体制だけでは全ての診断実施に対応できず、一部を外部に委託。コスト削減と体制整備が課題だった。

導入

情報処理推進機構（IPA）の検証結果と
「7割以上自動化」という点が決め手

導入の背景

- 1 手動の診断では対応が追いつかず自動化を検討していた
- 2 自動化できても性能が落ちない製品を探していた

手動作業を伴う診断では対応が困難になり、診断の自動化を検討。AeyeScanは、IPAの検証結果が高評価だったことと、「7割以上の自動化が可能」という点が決め手で導入。

効果

診断・レポート作成工数を大幅に削減。
さらなる内製化比率の向上を目指す

具体的な効果

- 1 診断の大部分を自動化し工数を削減
- 2 レポート機能により大幅に時間を短縮
- 3 リリース前に診断と脆弱性改修が完了

「脆弱性が発覚しても、リリースまでに修正が間に合わない」という悩みも解消され、脆弱性を潰してからアプリをリリースできるように。

導入事例紹介

タイガー魔法瓶 様



企業名 タイガー魔法瓶株式会社

事業内容 生活用品総合メーカー

従業員数 769人 (2023年6月時点)

課題

診断を外注していたが、コストとスケジュール調整が負担になり、内製化を検討

具体的な課題

- 1 セキュリティ人材の確保が困難
- 2 外注コストの膨張
- 3 診断調整の負担増

脆弱性診断には専門的なスキルやノウハウが必要となるが、社内での人材確保は難しく、外注せざるを得なかった。1サイトの診断に数百万円単位のコストがかかる上に、診断実施までの調整コストも膨らんでいた。

導入

自動巡回の精度や脆弱性の検知率等で比較。
最も信頼できるAeyeScanに導入決定

導入の背景

- 1 脆弱性診断の「内製化」を目指したい
- 2 過検知・誤検知が少ない製品を探していた
- 3 コストを削減したい

自分たちで使いこなせるかを重視しつつ、自動巡回の精度、検知率等を定量的に比較。AeyeScanで特に評価したのは「自動巡回機能」と「診断精度」だが、大幅にコスト削減できる点も導入の決め手。

効果

年1回の定期診断を実施。
自動巡回機能で大半の作業を自動化。
大幅な負荷軽減に

具体的な効果

- 1 作業の自動化による担当者の負荷軽減
- 2 セキュリティレベルの担保に有用
- 3 GUIが使いやすく、教育も容易

「自動巡回機能」により、大半の作業を自動化。直感的に作られたGUIは使いやすく、使い方の共有もしやすい。クラウドサービスならではの、こまめな機能改善も好印象。

導入事例紹介

虎の穴ラボ様



企業名 虎の穴ラボ株式会社

事業内容 システム開発・インフラ／クラウド構築・Webサイト制作など

従業員数 59人 (2023年9月時点)

課題

外部診断に依存しており、
複数サービスに対する
診断コストがかさんでいた

具体的な課題

- 1 周辺サービスの数が多く、外注だと網羅的に診断できない
- 2 ほぼ毎週のリリースサイクルに合わせた診断ができない
- 3 オープンソースの診断ツール利用のノウハウがない

大規模な改修時だけでなく、ほぼ毎週リリースされるサービスのサイクルに合わせ、頻繁に診断を実施したいと考えた。また、周辺サービスの数も多く、それらすべてに網羅的な診断を実施しようとするコストがかかりすぎると感じていた。

導入

複数ドメインをカバーでき、
主要な脆弱性をしっかり指摘できる
クオリティを評価

導入の背景

- 1 簡単な設定で基本的な脆弱性を検知できる
- 2 何サイトでも診断できコスパが良い
- 3 自分たちのタイミングで診断できる

主要な脆弱性をしっかりと検知できる診断クオリティの面と、ドメイン単位で課金する必要がなく、何サイトでも診断できるコストパフォーマンスの良さを理由に選定。安かろう悪かろうではなく、しっかり診断が行える点を評価。

効果

大規模な改修時以外にも、
定期的な診断をコストパフォーマンスよく実現

具体的な効果

- 1 複数サービスに対し、月1回の診断が可能に
- 2 リンク切れなど、脆弱性以外の問題も把握
- 3 セキュアな開発に関するノウハウが蓄積できる

WordpressやRuby on Rails、Java系といった、さまざまな開発環境の複数サービスに対し、月1回の診断が可能に。「こんな指摘もあるんだな」と新たな観点を知ることができる点、セキュリティ意識が高まる点にもメリットを感じている。

導入事例紹介

富士ソフト 様



企業名 富士ソフト株式会社

事業内容 システム開発

従業員数 8,991人 (2023年6月時点)

課題

セキュア開発ルール+運用円滑化のため
簡易で低コストの診断方法が必要な状況に

具体的な課題

- 1 セキュア開発対応にばらつきがあった
- 2 ルール徹底にはコスト増が避けられない
- 3 開発競争力の維持にはコスト抑制が必須

セキュア開発に関するルールを策定していたが、各プロジェクトに遵守させるためには簡易かつ低コストで診断できる方法が必要な状況だった。

導入

幅広い言語や開発環境に対応しているのが
AeyeScan導入の決め手の1つ

導入の背景

- 1 簡易かつ低コストな製品を探していた
- 2 運用の前提条件は過検知の少なさ
- 3 幅広い言語や開発環境への対応が必須

一定のセキュリティベースラインを設けたいという狙いに、AeyeScanが合致。幅広い言語や開発環境に対応しているだけでなく、脆弱性診断の経験がなくても、診断できると感じた。

効果

AeyeScanとセキュア開発ルール整備との
両輪で**ほぼ手放しでの運用**が可能に

具体的な効果

- 1 簡単に使えるのでほぼ手放しで運用可能
- 2 セキュア開発に関する知識と意識が向上
- 3 好きなタイミングでの診断を実現

ルール整備との両輪でAeyeScanを導入した結果、診断未実施のまま納品する状況から脱却。「好きなタイミングで診断をする」という形が整った。

導入事例紹介

ラック様



企業名 株式会社ラック

事業内容 トータルITソリューションベンダー

従業員数 2,172人 (2023年6月時点)

課題

診断ニーズの高まりと
Webサイト全体への網羅的な診断要望に
対応しきれなかった

具体的な課題

- 1 特定時期に診断依頼が集中してしまう
- 2 スケジュールやコスト面で顧客要望に
応えられないケースが増加
- 3 全ページを網羅的に診断したいという
要望への対応

専門家が深く丁寧にみるサービスの特性上、全ページを網羅的にチェックしてほしいという要望への対応が難しかった。スケジュールやコストがネックで、顧客の要望に応えられないことも。

導入

「AeyeScan」はセキュリティ診断を内製化したい企業から高評価、AeyeScanを活用した「Quick WATCH」のサービス開始

導入の背景

- 1 技術評価の依頼を受けて検証を実施
- 2 日本製ならではの使いやすさと高品質な結果を評価
- 3 セキュリティ専門家だけでなく内製化にも利用可能と判断

手軽に使えて自社のセキュリティ診断を内製化し、設計や開発の初期段階からセキュリティを組み込むシフトレフトに取り組みたいと考える企業でも使いこなせると判断。

効果

コストや時間、リソースによって
やむを得ず対象外としてきた
ページの診断が可能に

具体的な効果

- 1 2021年11月に「Quick WATCH」サービスの提供を開始
- 2 自動巡回をで見積コストを大幅削減
- 3 急ぎのニーズにも対応可能に

2021年11月に「Quick WATCH」の提供を開始し、網羅性と手厚い支援の両方を提供可能になった。また、人材不足で診断を内製化できなかった企業への提案も可能に。

 **AeyeScan** (エーアイスキャン) により
セキュリティ対策にかかる **コストを削減!**



クラウド型Webアプリケーション
脆弱性検査ツール

国内市場シェア

No.1※



有償契約
100社以上

※富士キメラ総研調べ「2023ネットワークセキュリティビジネス調査総覧 市場編」(Webアプリケーション脆弱性検査ツール(クラウド)2022年度実績)

※ITR調べ「ITR Market View:サイバー・セキュリティ対策市場2024」SaaS型Webアプリケーション脆弱性管理市場:ベンダー別売上金額シェア(2022年度実績)

プロが認める品質・精度



ブラウザ上での直感的な操作

セキュリティベンダーやSIerでも
顧客向けサービスとして活用

専任エンジニア不要、情シスや開発部門でも
安定した運用が可能

さまざまな企業さまに導入いただいております

ユーザー企業

製造



インフラ



金融



出版メディア



エンタメ



SaaS



SI・IT企業



セキュリティ企業



AeyeScanの導入を検討してみませんか？

操作性の確認、実際に利用してみたい方へ

AeyeScan の 無料トライアル

トライアルにかかる費用は不要。実際の操作性はどうか？
またどのように脆弱性が発見されるのか？
などの疑問は無料トライアルで解消しましょう。

無料トライアルの申し込み



お見積りの希望・導入をご検討している方へ

AeyeScan への お問い合わせ

お見積りの希望・導入をご検討してくださっている方は
お問い合わせフォームよりご連絡ください。
当日もしくは遅くとも翌営業日にはご連絡を差し上げます。

お問い合わせフォーム



会社概要

商号	株式会社 エーアイセキュリティラボ		
役員	代表取締役社長	青木 歩	
	取締役副社長	安西 真人	
	取締役	杉山 俊春	角田 茜
	執行役員 CTO	浅井 健	
	執行役員	関根 鉄平	田中 大介
事業内容	情報セキュリティ関連事業（調査・コンサルティング） セキュリティ診断クラウドサービス「AeyeScan」提供		
設立	2019年4月		
拠点	東京都千代田区神田錦町2-2-1 KANDA SQUARE 11F WeWork内		
資本金	1億円		
従業員数	33名		
Webサイト	https://www.aeyesec.jp/		
取得認証	情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS） ISMSクラウドセキュリティ認証（ISO27017） 情報セキュリティサービス基準適合サービスリスト		

AeyeSecurityLab

セキュリティに
「あらたな答え」を提供し続ける
プロ集団



IS 752963 /
ISO 27001

CLOUD 790050 /
ISO 27017 023-0026-20



AeyeScan

セキュリティに、確かな答えを。